

荒神谷に まつわる 数々のナゾ

誰が、なぜ、大量の銅剣を埋めたのか

荒神谷に青銅器を埋めたのは誰だったのか？

荒神谷に青銅器を埋めたのは誰だったのか、具体的な人名まで知ることは、現在ではまず不可能でしょう。それでも当時の様子を語る「証人」である遺跡が、荒神谷以外からも発見されていくにつれて、荒神谷周辺をはじめとする、弥生時代の出雲の状況が少しずつわかってきています。

弥生時代の出雲地方西部は現在と違い、斐伊川や神戸川・神門水海（今の神西湖）に面した場所に港が開け、周辺には大きなムラが発達していたようです。

なかでも出雲市の矢野遺跡では、縄文時代の終りごろから続く大集落で、岡山から運ばれた特殊な土器が見つかったり、装身具である玉を作った跡が発見されたりしています。

また、同市の天神遺跡で何重もの堀に囲まれた大集落が発見されたり、神戸川の南にある古志本郷遺跡でも玉作りをしていた跡が見つかるなど、斐伊川の西側でムラが栄えていた様子が見えます。

荒神谷遺跡のある斐川町は、斐伊



日本海上空から見た出雲平野
この平野のいずこかに、青銅器を保有した人びとがいたのかも知れない。

川の押し流した土砂によって弥生時代のムラが地下深くに埋没してしまったのか、いまだに大きなムラは発見されていません。しかし近年の調査によって、斐川町の仏経山の北西側のふもとにも集落があったと考えられるようになりました。荒神谷に大量の青銅器を埋めたのは、このムラの人たちだったのか……。発掘調査から言えることはまだわずかですが、現在、荒神谷遺跡にもっとも近いムラを探して、調査研究が進められているところです。

どこに眠る？ 銅剣の里

荒神谷と出雲平野のムラ
(弥生時代の出雲平野想像図)

日本海に流れる斐伊川や神戸川に沿って多くのムラが発達するが、荒神谷遺跡のある斐川町内では、たしかなムラの跡は発見されていない。



多くのナゾにまつわる青銅器

弥生時代後期になると、近畿地方では銅鏡が巨大化するようになり、九州北部では大型の銅矛や中国製の鏡がもてはやされます。しかし山陰地方をはじめ、中国地方のほとんどで青銅器を使った形跡が見られなくなります。

荒神谷に大量の青銅器が埋められたことが、山陰地方で青銅器が作られなくなったことと直接結びつくのかその関係はまだわかっていません。

また全国の青銅器が出土する場所を見ると、九州北部で墓から出土するのをぞくと、人里離れた山中や谷間の斜面から見つかることが多く、その際土器のような生活に使われた品がないのも特徴です。

弥生人の祭りのシンボルであった青銅器が大量に埋められ、使われなくなった理由については、荒神谷遺跡の調査研究をもとに、下のような説が現在考えられています。正確なことはまだわかっていません。みなさんもこのナゾについて、いっしょに考えてみませんか。



銅鐔と銅剣がいっしょに埋められていた志谷奥遺跡（鹿島町佐陀本郷）
志谷奥遺跡では銅剣6本・銅鐔2個が、荒神谷遺跡と同様、人目につかない谷の奥地から出土した。*出土状況は復元したものと

あなたならどう考える？～荒神谷遺跡をとりまくナゾ

荒神谷遺跡は、私たちにさまざまなナゾを投げかけています。

ここではその中心となる四つのナゾについて、現在の有力な説を紹介しましょう。

なぜ、荒神谷に大量の青銅器を埋めたのか？

周辺地域（岡山・九州北部・近畿）から侵攻を受け、神宝である青銅器を守るために、一時的に人目につかない場所に隠した。
近畿や九州の勢力から青銅器を使った祭りを禁じられたため、今まで使っていた青銅器をすべて埋めた。
出雲をはじめ山陰の各ムラに銅剣を何本かずつ配る予定であったが、なんらかの事件が発生して配ることができなくなり、やむを得ず埋めた。
大地の神に奉納するために埋めた（出雲のクニの安定など、大がかりな祈願をするため）。

いつ、荒神谷に青銅器を埋めたのか？

出雲では弥生時代後期に属する銅剣の型式が発見されおらず、後期には青銅器を使った祭りが終わっていたと考えられる。そこから、弥生時代中期の終りから後期のはじめにかけて。
青銅器を保持していたのは出雲の各クニの「王」たちという仮説を立てると、出雲の王たちが畿内政権に屈伏したとき、出雲独特の祭りのシンボルである青銅器を埋めさせられたと考えられる。そこから、出雲の王たちが畿内政権に屈伏したと見られる弥生時代終りから古墳時代はじめにかけて。

誰が、荒神谷遺跡の青銅器を作ったのか？

銅矛……刃の研ぎ分けなどから、九州北部と強いつながりが考えられるので、九州北部で作ったものを出雲に持ってきた。あるいは、九州北部の銅矛製造技術を持った人が、出雲に出張して作ったことが考えられる。
銅鐔……近畿地方とのつながりがあるとすると説が有力。しかし近年九州北部から荒神谷の銅鐔とよく似た銅鐔の鑄型が出土したことから、九州との関係も考えられる。製作場所は、銅矛と同様、九州や近畿で作ったという説と、技術者が出雲に出張して作ったという説がある。
銅剣……「中細形銅剣c類」という、出雲を中心とする山陰地方に多い形式なので、九州北部や近畿などとの関係のなかで、出雲で作られた可能性が高い。そのほか、近畿地方を基盤として銅剣を作るグループが、各地を巡回して作ったという説もある。

誰が、荒神谷に青銅器を埋めたのか？

荒神谷にもっとも近い、斐川町のムラの有力者が埋めた。
荒神谷に近い出雲・斐川平野の大集落である矢野・天神・古志本郷や、未発見の斐川町内のムラの有力者たちが埋めた。
出雲・斐川平野だけでなく、旧出雲国の有力者全体が集まって埋めた。
出雲の外部から敵が侵入して、神宝である青銅器を奪って埋めた。